

アライグマによる農作物被害の防ぎ方

問い合わせ先

アライグマ研究グループ 佐鹿 万里子

E-mail: msashika@vetmed.hokudai.ac.jp

Tel: 011-706-5104 / Fax: 011-706-5569



器用な手足と優れた身体能力を持つアライグマによる被害は、防除が非常に困難であると言われています。納屋や畜舎、屋根裏などへの侵入も、頭が入るわずかな隙間があれば、楽々と通り抜けることができますし、少しの引っかかりさえあれば、垂直の壁を登ることも可能です。特に、農作物の収穫期には集団で行動するため、捕獲による駆除だけで被害をなくすことはできません。



北海道では、アライグマによる農作物被害対策に、高さ1mくらいの防風ネットやトタン板を使用する農家が多いですが、これで万全ではありません。



軽々とネットに跳びつき、乗り越えて行った（柵は約1m）
防護柵は、侵入されると被害がかえって大きくなってしまいます

また、犬を放し飼いにしたり、一晩中ラジオをかけっ放しにしたり、唐辛子やシソなど刺激の強い農作物を被害作物と並作する農家もありますが、いずれもあまり効果はないようです。現在、初期投資や維持費用、効率性などを兼ね備えた防除策を考案中ですが、まだどれも確実な対策とは言えません。ここでは、現段階で経験的に防除効果のあった幾つかの対策を紹介します。



効果を信じてユニークな防除策を試行する農家さんもいます

←テーピング法

アメリカでは70%以上の防除効果が報告されている
安価だが、畑規模が広がると手間がかかる（小規模な家庭菜園などには有効です）



作物から離して設置するのがポイント



↑電気柵

コストがかかりますが、下草などの管理が適切であれば、効果は絶大です
架線は10~15cm間隔で3段張り以上をお奨めします（写真は4段）

↑物理柵

ネットの高さを2倍（約150cm）にする
簡単だが、今のところ被害の報告はない